

点検の不動産利活用

最終回

一般財団法人 日本不動産研究所

本稿で紹介する地区は、都心の中心部に位置する名古屋市中区「地域フラットホーム」と呼ばれる組織があったが、バブル崩壊後の産業不況に端を発し、問屋機能の衰退が拍車を掛けて空きビル・空き地が増加し、風俗店の侵食を受け、まちの環境や安全性が危惧される状況になった。

地元では、にぎわい事業を

行政・大学など様々な主体が関わり、未来の地区・コミュニティの実現に向けた構想づくり・研究を行った。11年には、まちの品格を育む「ルール」と「元気を育むルール」を定めた「錦二丁目まちづくり構想・総合計画2030」が策定された。研究の成果に「会所」の再認識がある。

豊かな生活空間

かつての城下町時代に基盤割の区画の真ん中に配置された神社・仏閣は「会所」と名付けられ、会所に至る路地を



①繊維街で開かれる長者町表びす祭り ②ワークショップの開催
(提供は、いずれも錦二丁目エリアマネジメント株式会社)

錦二丁目地区のエリアマネジメント活動 愛知県名古屋市長 愛知屋市

ヒトを連携させる「会所」

中心に日本三大問屋街として発展してきた。戦後の発展の背景には、地域で暮らす住民や事業者・地権者が主体的に取り組む活動(現代用語で「エリアマネジメント」という)があり、それを支えた問屋を中心とした協同組合や古くか

創出し環境を改善するため、04年に「錦二丁目まちづくり連絡協議会」が発足し、企業・

生かした街区では、表と裏で表情の異なる豊かな生活空間が形成された。現在建設中の

いて、ビジョン立案・実証実験・社会実装を標榜(ひょうぼう)した各種取り組み(ビジネス地区から職住近接の多機能地区へ、自動車中心から「ひと」中心の公共空間へ、グレイインフラからグリーンインフラへ等)を推進する。

コロナ禍においても、戦後復活を遂げた起業家精神は今に引き継がれている。成果に向けた一つひとつのプロセスにおいて、様々な分野の人々の交流により、まさに「会所」を通じた新たな文化・生活を創発している。今後の発展は



④「N2/LAB」の活動エリアの位置(提供:株式会社マップル)
⑤7番地区再開発ビルの会所(広場)の完成予想図(提供:錦二丁目7番地区市街地再開発組合)

⑥「N2/LAB」(エヌ・

歴史ある繊維問屋街から多様性を育むまちに転換するため、前述した協議会組織はエリアマネジメント会社を立ち上げ、彼らを中心としたエリアフラットホー

課題を提起し、解決策のアイデアを募り、参加者が連携することで対策を深化させ、実証実験等を生かして発展させる手法を取り入れている。当該地区の特徴である道路率の高

※ お知らせ・次週より新シリーズ「ニューノーマル最前線」を始めます。